磐陵新聞
発行所　若松高校新聞部
福岡県若松市小石
発行人　豊田和哉
編集人　入江健太郎
印刷所　西日本新聞社

(知)(識)(の)(源)(泉)
西海堂書店
本町四丁目
電二四一五

新生徒会役員定る

各クラブ共軽ろやかに発足す

吉田(委員長)松尾、加納(副委員長)

去る十月二十八日(木)講堂において三十年度生徒会役員の選挙が行われた。その結果、新委員長に二年一組吉田幸雄君、副委員長には二年七組松尾敏子さん、一年七組加納健男君が決定し、中間考査後からのあわただしい時期に前委員長白橋君、副委員長の白石さん、山本君からバトン・タッチが行われ、また生徒会各部の部長、副部長の改選も行われ、ここに全生徒一致協力のもとに新生徒会が発足する運びとなった。

本年度の新役員選挙は、予定どおり中間考査後の十月二十八日に行われた。

委員長候補には二年から、吉田、奥本の両君が立ち、二年同士の争いとなり副委員長候補には、初めて一年の加納君と小川さんの二名が立っていたが男女各一名の規約であるため、ともに信任投票かと思われていたところ、投票前日になつて突然二年の松尾さんが二年生の支持を受けて、名乗をあげたため、松尾、小川さんの争いとなつた。なお加納君には信任投票が行われた。今年は昨年と異り選挙日まで期間があつたためか、各候補共に活発な動きをみせ、これに伴つて生徒全員の選挙に対する関心も高まり、その表れであろうか例年多い無効投票も幽合に少なかつたのは嬉ばしいことである。

開票の結果は別記の通り、委員長は吉田君、副委員長には松尾さんがいずれも圧倒的な支持を受け過半数を得て、信任された。これにより来年十月までの新生徒会役員が発足、あわせて二日には各クラブの部長、副部長も改選され、ここに三年から二年、一年へとバトンタッチされ、いよいよ生徒会も新軌道に乗りうつろうとしている。

委員長候補

○吉田幸雄　七七五
奥本増美　四四七
無効　五一

副委員長

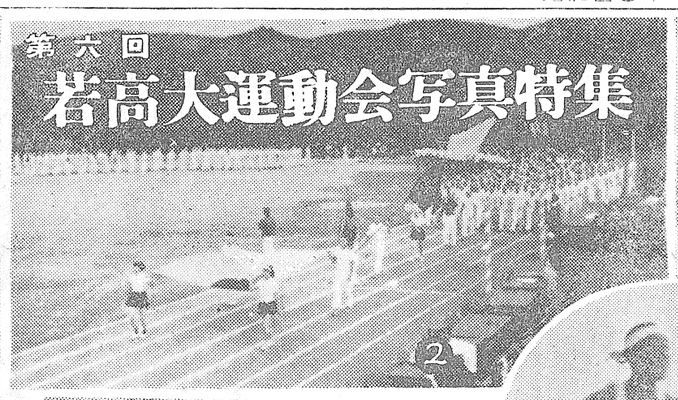
○加納健男　八一七
信任　三六七
無効　九二
○松尾敏子　七五九
小川堯子　四六四
無効　五三

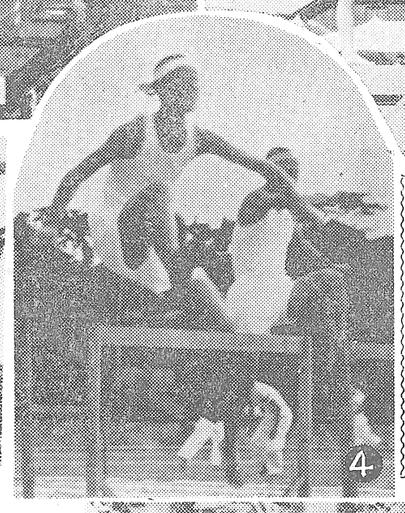
生徒あつての生徒会

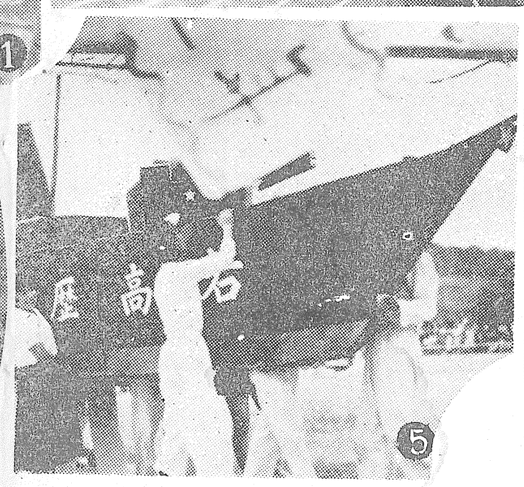
新委員長談

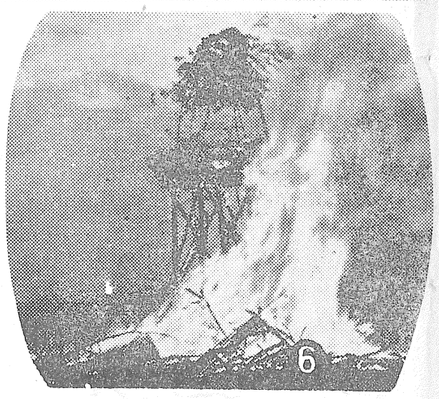
本校に着任して一ケ月余りになつた。しかしまだ学校の全容を把握したといえる訳でもないので調はば管見といつたような、私の第一印象を率直に書いてみる。正直なところ、私はこの一ケ月の間に本校の生徒の気風の荒いのに一驚した。私も折尾の生れだし、昔からお隣同志で若松という土地には大体の予備知識は持つていたが、諸君の意見が通らなかつたといつても、学校という社会では、多数決の原則は、やはり尊重されなければならない。それがためにこそ、生徒会の意見を尊重し合うことである。このことは生徒諸君の支持により、委員長に当選したことを大きな喜びとしている。今自分は勝りない希望に燃え理想に燃えて、生徒の意見を十分に反映させた、文字通り生徒あつての生徒会にしたい。諸君は今後の生徒会の活動を十分見守つて戴きたい。しかし前進するためには諸君の自覚と協力による適確な判断力を必要とする。何も一部生徒の意見が通らなかつたといつても反対されては困る。学校という社会は先生、生徒の相互の理解が必要であり、最も民主的に運営されなければならない。それがためにこそ、第一に生徒の意見を尊重し合うことである。このことは生徒諸君の支持により、委員長に当選したことを大きな喜びとしている。今自分は勝りない希望に燃え理想に燃えて、生徒の意見を十分に反映させた、文字通り生徒あつての生徒会にしたい。諸君は今後の生徒会の活動を十分見守つて戴きたい。しかし前進するためには諸君の自覚と協力による適確な判断力を必要とする。何も一部生徒の意見が通らなかつたといつても反対されては困る。学校という社会は先生、生徒の相互の理解が必要であり、最も民主的に運営されなければならない。それがためにこそ、生徒会

第六回 若高大運動会写真特集









説明
①タイプライター
②入場式
③平均台
④ハードル
⑤黒船
⑥ファイアーストーム
⑦応援団

学生と文化

〝近代の指標〟

今泉義則

ポツダム宣言の受諾と共に進められた日本の民主主義化は、憤原の炎の如く日本全土におよび、政治経済文化に一大革新が齎らされた。然し次第にとりが除されて行くは何として惜しいことである。

昨今では民主的とかデモクラシーとかいう言葉も余り聞かれなくなりちょうど冬眠いたという感じさえもつようになったのではなかろうか。敗戦によって強制されたのも占領期間中だけのものと考えている人もいるようだ。民主主義が日本において発展しないのは何に帰因しているのであろうか。

それは日本の社会に残る封建遺制、換言すれば近代化されざる多くのものが因習として根強く残っているからである。近代思想を受け入れ育てる地盤がつくられていないからである。古い殻を脱しない限り文化の進展は望めない。

私はここで近代のフランスについて一言したいヒューマニズムの意識にめざめ生き生きとした個性を表現し人間性を昂揚した近世初頭のルネサンスはイタリヤに花を開いたがその実り多きはフランスであった。人間性にめざめたルネサンスの思潮は自由主義民主主義の源泉となり近代を動かす原動力となった。ヴオルテールやルソーによって唱えられた啓蒙思想（すべて人間は自由にして且つ平等である）ーは、古きフランスの制度を排除して新生フランスの母胎となった。フランス革命により躍み出した近代市民社会への第一歩は当時の人権宣言に高く掲げられ自由、平等、博愛を彩る三色旗と共に近代の指標として確固不動の地歩を築いたのである。しかしこの後のフランスの進んだ道も平穏ではなかった。ナポレオン一世の帝政第二共和制、ナポレオン三世の第二帝政、第三共和制と築いては崩れ、崩れては築き恰も積木細工のようであった。この変遷の中にも人間性の発展があった。一九四六年（第二次世界大戦後）の第四共和制の建設に当って「一七八九年の人権宣言を再確認しその憲法を制定する」ことを明記している。フランスは、彼ら国民の歩みの中で獲得し、今日に至っている。

日本の新憲法は、国民の獲得したものというより与えられたという方が妥当かも知れない。それだけ国民の関心も薄いわけだ。

入間性に基づく自由主義民主主義は、市民の自由、民衆の解放を起し、市民社会の発展を促した。

個人は市民であると共に国民でありまた世界共同社会の一員である。国際間に復帰するわれわれは古き偏狭と独善を排して新しき共同社会に躍進すべきではないか。

民族の独立、民族の繁栄を希求する限り、世界共同社会の一員としての自覚が失ってはならない。民族の文化も人間の福祉にもとづき、ひいて世界文化の発展に貢献し得るものとなるべきではなかろうか。

一九四五年成立したユネスコ憲章は、「世界の良心」とも呼ばれ世界の教育科学文化の理解と発展のために活動し、世界共同体の建設に向って進んでいる。

われわれはもっと社会の建設に進まねばならない。明日の世界を夢く若い人々に期待するところは大きい。

世代の発言

十代の巻㊤

大人たちへの不信

三年　平尾浩一

『N先生、先生、先生は僕達が卒業する時、淋しそうにこうおっしゃいましたね』

『今、この学校を君達は卒業して行く。上の学校に進む者もあろうし、職につく者もあろう。そうして君達は成長して行くのだ。しかし次第に成長して行くにつれて君達は私に、いや私達に何かへだたりを感じるようになるだろう。私はそれが淋しい。しかしそれは君達が成長して行く上の一つの過程なんだから、私はむしろそれを祝福しなければなるまい……』と。

先生、僕は今になってやっと先生のお言葉の意味が分ったのです。今になってみると先生が『私』を『私達』に直された理由も思い当ります。『私達』というのは先生も含めて『大人達』という意味だったのですね。

ほんとうに『大人』と僕らとの間には大きな溝が横たわっているようです。大人達は僕らの考えていることを少しでも理解して呉れているのでしょうか、あるいは理解できるのでしょうか。

先生、先生でも僕らの行動を理解して下されるかどうか僕は疑わずにはおれません。

ああ、先生に対してまで、何故こんなことを考えるようになったのでしょうか。恐らく、恐らく僕が今『大人達』に対して抱いている強い不信の所為だろうと思います。しかもこの感情は幼い時から少しづつ僕の心の中に養われて来たものです。僕らは幼年時代を太平洋戦争勃発前後のサッパリな時代に過しました。まず戦争勃発以後の慌しさ、特に戦争後半の空襲の恐怖と終戦後のデタラメ極まる混乱の中に僕らの少年としての、愉しい、将来へ美しい思い出の花蕾となるべき時代を葬ってしまったのです。戦争は僕らの子供らしい夢を破壊しました。僕らは楽しい物語りの本の代りに血なまぐさい戦争の本を持たされ、心を豊かにするべき美しい音楽の代りに軍歌を教えられたのです。まるジョウイ弾の雨の中で大人達は僕達に利己的であれと教えました。終戦後にはさらに狡猾になれと教えました。さらに現在大人達は生きて行くためには嘘をつけ、正直であってはならないと教えます。

しかし先生、先生は僕らに正直であれと教えて下さいました。何故なら先生は中学校の教師の身であるからです。しかも先生は社会に出ればそれはとっても実行できないことを知っていられるのです。それでも僕らは『大人』を信ずることができるでしょうか。

恋愛のことにしろ、誰もが一度は考える生の問題にしろ死の問題にしろ、僕らは考えるべきこと、そして苦しむべきことを余り多く持っています。しかしそれを大人に相談しようという気にはとてもなれません。こうして『大人』を信じないことによって僕らは孤独になって行くのかも知れません。しかし、例えば大人は僕らの愛情の問題をこの程度まで分って呉れるでしょうか。相談することは結局は僕らの抱いている美しものを、夢を現実の泥に染めてしまうようなものです。僕らの夢を語るには大人は余りに現実的で狭いんですよ。

ええ、大人は僕達が現実的だとよくいいます。そうです。幼少年時代が戦争前後に過して来た僕らが現実的で、成長するという事は有り得るでしょう。しかし僕らは若さと情熱に満ちあふれて美を追げて美しいものを若い者に相談なんです。

ということは、只僕達が現実的だということは僕達自身というものを自覚して欲しいということにすぎません。つまり自分を判然認識することによって将来の自分の進むべき方向をしっかりと規定それに向って努力するということなのです。それは大きな進歩であって非難されるべきものではないし、僕らの夢を追求するのに何の妨げにもなりません。先生、僕らは今高等学校に通っていますが、その凡ゆる面において大学の受験というものに対してこのために青春を犠牲にしている人も多いようです。今の世の中が一種の畸型的な時期である以上それもやむを得ないかも知れませんが、僕はそんなのは厭です。僕らはもっと僕らの今の時代を楽しむべきです。清潔に、純に、将来の美しい思い出となるように。もっともそれがなかなかできないところに僕らの憂鬱があるわけです。

この移り変りのはげしいジャズを若人は追っまわしている。耳から直接に入ってくるものはこのように身に感ぜられるのであろうもっと他に頼るものはないのか。

書物の例をとっても同じことがいえる。漢字の多い、小さな字の沢山並った本を見ると、直ちに閉じてしまう。二万グラビアものだったらどうであろうか、全く正反対の現象が起る。現在わが国において最高の売行を示すものが、雑誌「平凡」であるとは。

若い者には落着きがない。気が浮わついている。といって断定するのはあやまりであろうか。なぜそうであるのか。要するに社会が悪いという一語につきると思う。一般にいわれる『ちかごろの若い人は』という言葉自体に『ちかごろの社会は』という意味が含まれていて、現在の社会の責任を若人達によって、完全に描き出されているといってよかろう。

あくせくとした毎日を送って、何ら得るところもない、進歩向上した形跡が少しもみられない。このような状態でよいのだろうか。われわれはもっともっと真剣に考えるべきである。

もう少しゆとりが欲しい。

自分に、家庭に、そして国家にも。

結局、ことのつまりは、政治が悪いということになるのだろうか？

近頃の若い者

三年　白石和子

とかく話題になりがちであるところの一つに『ちかごろの若い者は』という言葉がある。何故こういわれるのであろうか、その現象の一例を最近のジャズにとってみよう。昔からジャズはあった。しかしそれは温和な落着いた非常に快いものであった。だが終戦直後のブギウギ、何とも形容のつかない言のガチャガチャとした音。「ぎれ、何の目的もなく、何もとんでもない若い人達にとって耳もとびつきやすい、最も身近にあるものとして、愛好された。何もかも退廃した世間のウップンをこういう音楽によってはらそうとしたのだろう。しかしその傾向は薄くなってきた。

九年目になる今日では、次から次へと新しい曲が生まれ、今、うぶ声をあげたかと思うと、一週間の後には消えてなくなっている。

ルーヴル展見学のために

芸術への愛情を高めよう

今度初めて開催されたフランス美術展は、フランスが世界に誇るルーヴル美術館の蔵品の一部である。中世より十九Cに至るフランス美術のそのまた一部分である。唯今手元に東京展の目録がないのでその全貌は知り得べくもないが主なる出品は、中世のフレスコ、ルネサンスを代表するフオンテンブロ派、十七C最大の画家プッサン、十八Cの華麗な宮廷生活を背景とした典雅なロココ趣味のフラゴナール、それに対抗した庶民的ジャルダン、十九C古典派のアングル、浪漫派のドラクロアと自然主義的なミレー、写実派のクールベエ、印象派のピサロ、ドガなどの作品。彫刻ではロマネスク寺院建築の柱頭、ゴシック彫刻、ルイ十四世像、ナポレオン一世像および十九C工芸では、リオンの織織物、セーブ、ルアンの陶磁器リモージュの七宝、ルイ十五世様式の家具、絵画デッサン版画彫刻工芸書籍等三百六十五点といわれる。

ルーヴル美術館は王朝華かなりしころの宮殿でその沿革は、十二Cにさかのぼることができる。十六Cの始めフランソア一世がその中世風の居城を取りこわし、一部を宮殿にしたのがその軍創で以後アンリ四世、ルイ十四世、ナポレオン三世の増築を経て今日の形状を完成した。作品を陳列する ギャラリーの平面延長二キロ、建物を直線で歩くだけでも五里の道のりがあるといわれる。ルーヴルの蒐集は晩年のレオナルドの庇護者として有名なフランソア一世に始まり、アンリ十四世、ルイ十三、四世のブルボン絶体主義時代を経て、王室の宝庫は飛躍的に充実して、王室の宝庫は絶体主義時代を夢く若い人々に期待するところは大きい。

千数百点を数えたといわれる。ルーヴルに美術館を開設する案は、大革命途上の一七九一年五月の国民議会で議せられ、九三年一般に公開され、現状に近い態勢を整えたのはさらに半世紀後のナポレオン三世の治世である。ルーヴルが世界に絶冠する故は蔵品の数的質的優秀性ではあるが、これらの蒐集が永い歴史と高度の文化の蓄積と同時に、また自ら肥沃な美術の花園を持ち歴史の春季節を通してみごとな花を咲かせたフランス自身の国柄であり深い国民的な愛情の結晶であろう。

世界の美術史はルーヴルに結晶している。なおこの稿は柳亮氏の『ルーヴル美術館』によるところ大であるので附記しておく。（K）

図書館便り

暗黒日記

これは清沢例氏の戦時中の日記で（昭和十七年十二月九日から二十年五月五日）この日記を読むと今更のように戦時中の暗黒時代、軍部の暴慢、政治家の無知、無見識が思い出される。言論が情報的内務省、警保局、陸軍、海軍、それぞれにてんでんばらばらに検閲され、個人の権利など全然なく、外交史眠もない支配者に支配されていた。こういう暗黒時代の日記を過去の苦い思い出として読むにはあまり貴重すぎる。現在の日本にもあてはまりそうな貴重な日記である。十八年九月十二日『現下において一番の苦痛は低劣な議論たいして何らの批判が加えられないことである。それがますます世論を頽落させる』こういう考えを持つ清沢氏が『来るべき新しい時代には言論自由の確保ということが――政治の基礎とならなくてはならぬ』というのは当然たが今でこそ当然というがあの時分これだけの考えのある人がどれだけ残っていたかを思う時、氏の見識の高いことを知る。そういう意味でこの日記はた回顧的な意味だけでなく現在でも、将来への戒めとして読みかえす必要がある。

県北駅伝に本校惨敗

丟る十月三十二日、日曜日、高体連主催駅伝マラソン福島県北部地区大会が戸畑市役所前―黒崎駅前―緑町―勝山公園―大里東口―大里新町―勝山公園―戸畑市役所前のコース約四二・六キロで北部高校十四校を集って開催された。

九時四十分より開会式が行われ十時と同時に戸畑市役所前を出発し黒崎駅前に向ったが、第一走者の吉竹君のコンディション悪く第二走者にバトンとれる時には、約八〇〇米の差をあられ、その後の各選手の奮戦も破れ去った。しかしわが校のチームは、二年生で編成されていたので来年の成績が大いに期待される。

なおわが校の日野、二十二、森元、岡野諸先生が終始声援を送って下さった。また前校長森先生の顔も見られた。

編集後記

若高の年中行事の一つである秋季体育祭も滞りなく終了し、早や一ケ月を迎え、三年生の受験勉強や、就職でいよいよ本腰になってきた今日、ここに若高新聞第三十四号を皆様のお手許にお届け致します。

第一面には若高の最高諮問機関である生徒会新役員の顔ぶれ並びに抱負、就職第一号の朗報、加来新校長先生赴任後一ケ月を省りみて御熱筆願いました。

第二面には、楽しかった体育会の数々の思い出などスナップにして皆様にお目にかけます。

本号は皆様の御協力により記事も多く集まり部員一同大に活躍でき大変感謝致しております。

他校トピックス

八分の一頭身

某高校の生徒の中にピカソ的美人がいるそうな……いうなれば〝立てばピヤタル、坐れはタライ歩く姿はガスタンク〟とイヤハヤ誰がいったことやら。まさか十四人のおヒメさまのことは……。

とんだミステイク

都立高校の某君、数学の時間に問題をあてられた黒板にさっそと書いたまでは良かったが、なんと解答は大間違い、その先生曰く『これは君の間違いではなくて虎の巻の間違いである』と先生も虎の巻を見ていたそうだ。本校の虎の巻愛読者よ御用心。

守るも攻めるも

保安隊が自衛隊として発足した今日某高校の世論調査で『自衛隊に進んで入隊するか』との質問に『ある』と答えた〝勇気〟も同じく不合格。それで何と答えればよいかというと『仕掛られたらする』という〝自衛型〟のみ無事入社したのこと。社会の名は〝吉田〟ではなかったが。

当世社会

某会社の入社試験に『ケンカするか』との珍問が出た『絶対にしない』と書いた〝穏健型〟はすぐさまチョキン。反対に『する』と答えた〝勇気〟も同じく不合格。それで何と答えればよいかというと『仕掛られたらする』という〝自衛型〟のみ無事入社したのこと。社会の名は〝吉田〟ではなかったが。

男子優勝女子準優勝

新人排球大会

高体連北部昭和二十九年度新人排球大会は、去る十月三十一日曜日に八幡高校コートにおいて行われた。

参加校男子十七校、女子八校であった。

本校男子チームは、終始緊張したゲームを展開して、決勝戦においては豊津高校と顔を合わせ充分にねばりを発揮してリードされながらも最後うっちゃりを見せて夕闇せまるころ優勝旗を手にした。

成績は八幡高校を一回戦に2――1、二回戦は、常盤高校を簡単に2――0、準決勝で京都高校を2――0、決勝戦で豊津高校に2――1である。

一方女子チームは、決勝において京都高校に2――0と敗れたが二位を得ることが出来た。今後とも先生の指導のもとにがんばって行くつもりです。

後藤さん（球卓）二連勝

庭球は第二位

去る七日行われた市内候式卓球大会で団体に女子が優勝、個人でも後藤幸子さんが優勝。

一方庭球選手権大会でも三年早川・三好組が着戦より決勝戦に駒を進めたが惜敗二位となった。

風船

考査の時間割について問う

考査の時間割について二学先生にお願いします。毎回時間割はどのようにして作られているかは、私達は知りませんが、もう少し課目の組合せを考慮して下さい。本年度に入って三回の定期考査がありましたが、三回とも日だけが前後して、一日の課目は必ずしも非常に勉強しにくい有様です。それでなくても課目の組合せによって点の差がはげしいのですが、これが何回もかさなると、年度末にはどうなるでしょう。諸先生の御理解を得て、さっそく今回の試験より実施していただく様お願いします。（二年女子）

昼食時間を早く

十一月四日より実施されている授業時について一言。汽車通や朝ねぼうの人にとっては大変によいことだが、僕達遊び盛りの者にとって非常に困ったことである。もうお解りであろうが、それは昼食時間が一時間遅れるということで、四時間目の授業の時に先生の熱心なる講義を耳に入らず、弁当ばかりが目についてどうにもならない。おまけにその時間がきまって英語と来ているからいやはや。それで一年の某君、三時間目の休みに昼をしたらというと、O先生短かい時間にくみと一緒に食うのは非衛生的であるから断じてだめとおっしゃる。そこで三年生のS君が校園で食べてはどの御意見。（一年N生）

授業料納入期間について

授業料納入期間について学校側にお願い致します。今までは三日間の余裕があったのですが、最近二日間になったのは授業料を納めるものにとって非常につらいことなのです。なぜかというと、近頃あまりにもお金を出すことが多くいつも両親にきがねをしてもらっているのに、まして このように大金を出すというと、やはり色々と困難なことがあり、短かい期間に出すということはそこにやはりむりが行くのではないのでしょうか学校側としてもお金をあつかうのですからなるべく早くと思い、期間を短かくしたのでしょうが、生徒の立場から考えて見て下さい、私達は、お金をばらばらというのではないのです。その点誤解のないようお願いします。何とぞ良き御恩寵をお待ちしています。（三年S十D）

安価良品信用第一
金物ならなんでも揃う
阿部金物店
若松市本町四丁目
TEL三一〇七番

灯火親しむ候
正しいメガネで快適な――読書にお励み下さい――
愛智メガネ店
若松商連ショップ加盟店　若松市本町七丁目

明日の元氣を
お好み焼で

クスリの御用命は当店へ
キクヤ薬局
若松市連歌町
TEL二三五八

親切と信用第一
良い品を安く売る店
ワカセンの店
皆様の
ツヅキ洋服店
若松市本町六丁目
TEL⑦二九五二